

問題一

民主主義の本質とは精神的な態度であり、人間の尊重ということにほかならない。人間が人間として自分自身を尊重し、互いに他人を尊重しあうことである。各人が自分自身の人格を尊重し、自らが正しいと考えるところの信念に忠実であるという精神なのである。(119 文字)

問題二

大きな自由とは他人の権利を害しない限り、個人が自分の好きなように幸福を求めることが認められていることをいう。大きな責任とはすべての国民に同様の自由と権利とを尊重しなければならないことである。具体的には、私達には居住地を自由に決める権利があるが、その地に税を納めたり家賃を支払う責任が同時に生まれ、また他人の居住地を勝手に決めることは出来ないのである。(175 文字)

問題三

解答例 1

本文の見解が理解できその通りだと思った。憲法や法律だけでは民主主義が完成しないと考える。民主主義は決して単なる政治上の制度ではなく、あらゆる人間生活の中にしみこんでいかなければならないところの一つの精神なのである。それは、人間を尊重する精神であり、自己と同様に他人の自由を重んじる気持ちであり、好意と友愛と責任感を持って万事を貫く態度であると思う。この精神が人の心に広くしみわたっているところ、そこに民主主義がある。逆に、この精神が欠けているならば、いかににぎやかに選挙が行われ、議会政治の形が整っても、それだけでは民主主義が十分に実現されたということではできない。だから、本当の民主主義は議会の建物のなかで作られるものではなく、それが作られるものであるとすれば、民主主義は人々の心の中で作られる。それを求めそれを実現していこうとする人々の胸の中こそ、民主主義の本当の住み処であると感じた。(394 文字)

解答例 2

本文の見解が理解できず、きれいごとだと思った。例えば、「民主主義は人間の尊重ということにほかならない。各人が自分自身の人格を尊重し、自らが正しいと考えるところの信念に忠実であるという精神なのである」とは、きれいごとであり現実的でない。現実の民主主義は代表制である議会政治の世界で行われ、法律に基づいて施行されている。だれもが反対できない民主主義という美しい名前を借りて、人々を操っている。弁舌でおだてたり、金銭で誘惑したり、世の中をわざと混乱におとしいれ、その混乱に乗じて上手に宣伝したり、手を替え、品を替えて、自分達の野望を何とかものにしようとしている。あるいは、世の中で一番尊いものは強靱な国家であり、個人は国家を強大ならしめるための手段であると考え、国家さえ強くなれば、国民の生活も改善されるかのように約束するといったことなどが、現実に行われている民主主義である。(385 文字)